



地域政党

兵庫むすびの党

# むすび新聞



第4号

発行

令和6年5月1日

東京都内・名古屋市内でシンポジウムを開催しました

## 児童相談所問題 解決に向け、地方議員との連携を強化します！

### 1 「児相の真実を語る会」の開催

私は、行政に虐げられている人々を救う“政治家弁護士”の立場から“児童相談所問題”に取り組んでおり、昨年11月に神戸市内で「児童相談所の真実を語る会」を開催し、さらに本年1月21日に東京都内で、3月17日には名古屋市内で同テーマの講演会を開催しました。

この問題に関心を寄せる地方議会議員（府県会議員・市区会議員）が、自民、立憲、国民、維新、参政、れいわなどの党派を超えて、のべ40名を超えて駆け付けてくださいました。さらに、鈴木宗男・参院議員（新党大地）から祝電を寄せていただき、会場で披露しました。



基調講演をする木原と、司会の森田真理華さん（左）

（令和6年3月17日・名古屋市内）

### 2 “鬼より怖い”児相の実態

講演会では、児相に一時保護された経験のある男子高校生A君が、父親とともに児相のひどい実態を語ってくれました。中2の時に関東圏の児相に一時保護されたA君は、その後2年半にわたり両親との面会が禁止されたといいます。

児相は「父親がA君を虐待した」と決めつけましたが、A君は一貫して「僕は虐待なんて受けていない」「家に帰りたい」と児相や施設職員に訴え続けました。そして、施設入所後の中3の時に「お父さんと進路について話したい」と訴えても、児相や施設職員は聴く耳を持たなかったため父親に一切相談できず、受験したい私立高校への出願すらできませんでした。

厚労省やマスコミは、“児童虐待が深刻”“児相の権限強化が必要”と言いますが、その一方で、児相による過酷な“親子分離”が全国で後を絶たず、ひどいケースでは親子の面会が10年以上禁止される例もあり、まさに“鬼”より怖い児相による“被害”が相次いでいるのです。



全国の地方議会議員らとの集合写真（前列中央が木原）

### 3 「児相議連」の立ち上げ

その背景には、過剰な親子分離により施設入所が長期化すれば“児相予算”が増えるという政治問題があります。そこで、私は、20名ほどの地方議会議員とともに「児相問題全国議員連盟」を立ち上げ、事務局長として活動しています。今後も、全国の政治家と手を携えながら解決に向けて取り組んでまいります。…【裏面に続く】

大変お世話になつてゐる南出善久治先生から「児童相談所の真実を語る会」を名古屋で開催されることをお聞きし一言、ご挨拶申し上げます。参議院議員の鈴木宗男です。児童虐待等に関する報道を見るにつけ、なんでこんな日本になつたのかと憂いておられます。昔から「子は国の宝」と言つて、先人たちが日本の文化、伝統を守つて来られたその思いを、今生きる政治家が心しなくてはならないと私は考えます。まさに政治の責任です。今回の集會を機に、私も政治の側面から協力して参ります。どうか子供たちを守つて戴きますようお願い致します。

参議院議員 鈴木宗男  
元国務大臣



会場で披露された鈴木宗男・参議からの祝電

# 裁判と政治の両面で **ワクチン薬害** 救済に取り組みます！

## 1 ワクチン死国賠訴訟の提起

新型コロナワクチン接種後の死亡・後遺症例が相次ぐことから、私は、令和5年5月以降、被害者たる原告の代理人として、国やファイザーなどを相手取って薬害訴訟（国家賠償訴訟）を提起し、訴訟追行にあたってきました。

そして、去る令和6年4月22日には、接種翌日にうっ血性心不全で亡くなった女性（80代）の遺族（長女）である服部昌子さんの代理人として、国、モデルナ等を相手取って4件目の薬害訴訟を福岡地裁行橋支部に提起しました。

記者会見で服部さんは「今回訴訟を起こすことで、母の供養とワクチン接種で亡くなった方の遺族や、ワクチンの後遺症で苦しんでいる方に力を与えるきっかけになればいい」と述べ、私からは、事案の概要のほか、国が推進してきたワクチン行政の違法性について説明しました。

## 2 過去に例を見ない“薬害”の発生

国は、ワクチン接種後の死亡・後遺症患者を救済すると称して「予防接種被害救済制度」を設け、接種との因果関係が否定できない死亡・後遺症例で死亡一時金、医療費等を支給しています（もともと、申請要件は相当厳格です。）。

新型コロナワクチンについては、昨年9月時点での救済認定件数が、過去45年間の全ワクチンの累計を上回るといいますので、もはや“大薬害”としかいいようがありません。

私の法律事務所にも、接種後の動悸・息切れ、顔面神経麻痺、手足の震え、慢性疲労症候群といった被害に関する相談が相次ぎます。今後、神戸地裁においても薬害訴訟の提起を予定しています。

## 3 令和3年衆院選(兵庫1区)からの一貫した姿勢

ところで、私は、こうした薬害の拡大を事前に予見し、これを防止するため、令和3年7月には国を相手取って接種中止を求める行政訴訟（武漢ウイルスワクチン特例承認取消請求事件）を東京地裁に提起し、さらに同年10月の衆院選（兵庫1区）では、すべての国政政党が“ワクチン利権”におもねり“接種推進”を公約とする中、ただ一人“ワクチン中止”を公約に掲げて無所属で戦いました。

世の中はようやくコロナ禍前の日常を取り戻しつつありますが、少なからぬ人々がいまもワクチン禍に苦しんでいます。私は、これまでの一貫した姿勢を堅持し、「ワクチン被害者の救済」を実現するため、裁判と政治活動の両面で全力を尽くしてまいります。

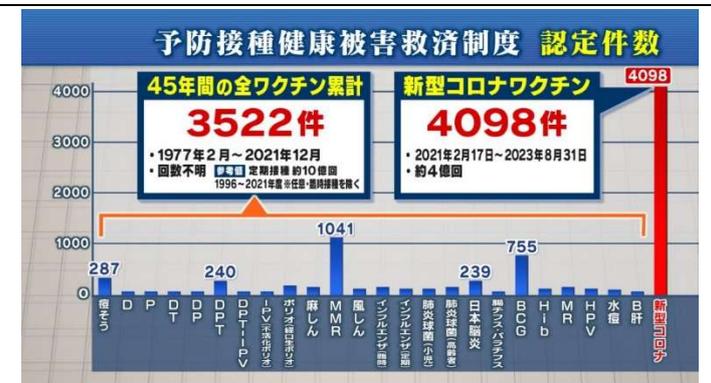
兵庫むすびの党 代表 弁護士 **木原 功仁哉**

【事務所】〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町 3-15-15  
グランディア住吉駅前 4階西号室（JR住吉駅南へ徒歩3分）  
電話 078-855-4014 E-mail info@kiharakuniya.com  
X（旧Twitter）https://twitter.com/kiharakuniya

経歴 昭和59年3月神戸市生まれ、市立御影北小学校、滝川中・高等学校、京都大学工学部物理工学科、旧大阪市立大学法科大学院各卒業、平成27年弁護士登録（東京弁護士会）、令和3年に高齢になりつつあった母が入院したことを機に神戸に帰省を決意。同年6月独立開業、同年10月の衆院選（兵庫1区）、令和4年7月の参院選（兵庫）にそれぞれ無所属で立候補。令和5年4月の神戸市議選（東灘区）では無所属で4386票を得たものの共産党現職に166票差で次点。この落選を機に、さらに精力的に活動中！



国や製薬会社などに約3,100万円の損害賠償を求めきょう福岡地裁行橋支部に提訴  
記者会見する木原と、原告の服部昌子さん（右）  
（令和6年4月22日・福岡県内／RKB毎日放送 YouTube チャンネルより引用）



新型コロナワクチンの救済認定件数（令和5年9月時点）が過去45年の全ワクチン累計の件数を超えた  
（サンテレビ YouTube チャンネルより引用）



毎朝、地域見守り活動中！

毎月第1・第3土曜日は事務所で交流会を行っています（11:00～13:00）。ぜひ遊びに来てください！

